

患者の皆様へ

2017年10月1日

千葉大学医学部附属病院 食道・胃腸外科

現在、千葉大学医学部附属病院 食道・胃腸外科では、「機械学習を用いた胃癌リンパ節転移迅速診断のフィージビリティスタディ」に関する研究を行っています。今後の治療に役立てることを目的に、この研究では胃がんの手術後、病理診断の為に作成された病理組織スライド（HE染色標本）、病理組織診断レポートを利用させていただきます。診療情報などがこの研究で何のために、どのように使われているのかについて詳しく知りたい方は、下記の窓口にご連絡ください。

1. 研究課題名 「機械学習を用いた胃癌リンパ節転移迅速診断のフィージビリティスタディ」

2. 研究の意義・目的 本研究では、HE染色法により処理された転移リンパ節組織像の機械学習により、病理専門医と同等かそれ以上の転移診断を自動で行うことができるかどうかに関し検討を行います。検討の対象は、すでに胃癌と診断され手術治療を受けている患者さんのリンパ節標本とし、バーチャルスライドシステムに取り込まれた組織画像を機械学習に掛けることで、リンパ節中の腫瘍細胞の自動抽出が可能となるかどうかに関し検討します。

本研究の成果により、従来からある病理診断法を用いた迅速なリンパ節転移診断が可能となります。これは病理専門医の負担を大幅に軽減するばかりでなく、将来的な消化器癌における胃の機能を温存した縮小手術が広くの普及するものと考えられます。」

3. 研究の方法 胃がんの手術後、病理診断の為に作成された病理組織スライド（HE染色標本）、病理組織診断レポートを利用させていただきます。

病理組織スライドを画像システムに取り込み、機械学習を行いことにより、迅速かつ正確な胃がんのリンパ節転移診断を行うプログラムを開発します。

4. 個人情報の取り扱いについて

本研究で得られた個人情報は、完全に匿名化してしますので、外部に洩れる可能性はありません。研究成果の発表にあたっては、患者さんの氏名などは一切公表しないこととします。データ等は、千葉大学大学院医学研究院先端応用外科学教室の鍵のかかる棚で保管

します。

5. 外部への試料・情報の提供

千葉大学内において病理組織スライドの画像取り込み（デジタルデータ化）を行い、東芝デジタルソリューションズ株式会社に画像データおよび病理診断結果のみ送付し、診断のためのプログラム開発を行います。

6. 研究組織

千葉大学大学院医学研究院（先端応用外科学） 責任者 松原 久裕
東芝デジタルソリューションズ株式会社 責任者 天野 隆

7. 研究に診療情報などを利用して欲しくない場合について

ご協力頂けない場合には、原則として結果の公開前であれば情報の削除などの対応をしますので、下記の窓口にご遠慮なくお申し出ください。

文部科学省・厚生労働省による「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に基づいて掲示を行っています。

研究実施機関 : 千葉大学医学部附属病院食道・胃腸外科

本件のお問合せ先 : 医学部附属病院食道・胃腸外科

医師 加野 将之

043 (222) 7171 内線5294

研究代表機関 : 千葉大学大学院医学研究院（先端応用外科学）

研究代表者 : 松原 久裕